

平成 20 年度 福岡市におけるインフルエンザの流行状況

保健科学課 ウイルス担当

福岡市における 2008/2009 シーズン（平成 20 年度）のインフルエンザ様疾患の集団発生は平成 21 年 1 月 19 日（第 4 週）に始まり、2007/2008 シーズン（平成 19 年度）とほぼ同じスタートであった。また、全国の集団発生集計結果(図 1)と同じく、5 週目にピークを認めた。福岡市内における集団発生は計 88 施設で発生し、患者数は 1,560 人(表 1)と、過去 4 年の平均患者数 (934 人) よりも増加した(表 2)。

感染症発生動向調査において、本市における 2008/2009 シーズンのインフルエンザの流行は 2007/2008 シーズンより早く、年が明けたあたりから患者が増加し始めた。流行のピークは集団発生とほぼ同時期であり、平成 21 年 4 週目に明確なピークが認められ、その後は一端減少したが、再度 11 週目にピークが認められ、その後減少した(図 2)。

表 1 集団発生事例における施設別発生状況

施設	発生施設数	在籍者数	患者数	休校数	学年閉鎖	学級閉鎖
幼稚園	33	1,770	593	7	12	14
小学校	38	1,339	606	0	4	34
中学校	15	794	313	0	4	11
その他	2	120	48	0	0	2
計	88	4,023	1,560	7	20	61

表 2 過去 5 年間の年度別集団発生患者数

年度	2004	2005	2006	2007	2008
患者数	722	295	2,080	637	1,560

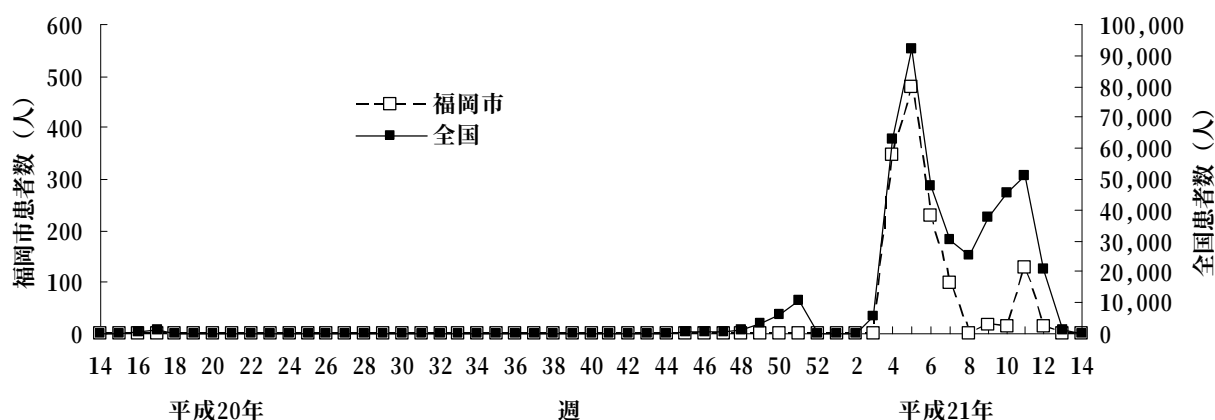


図 1 インフルエンザ様疾患集団発生患者数

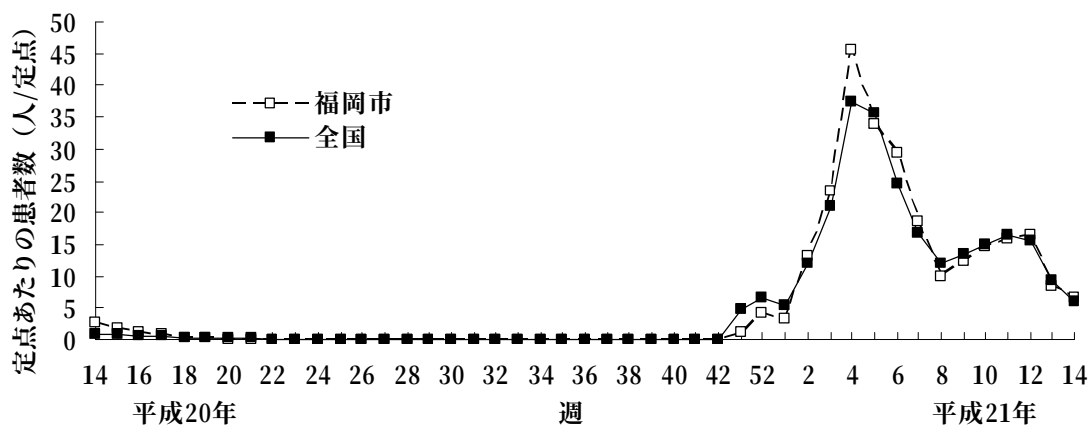


図 2 感染症発生動向調査患者定点あたりのインフルエンザ患者報告数

当所における感染症発生動向調査からのウイルス分離はAH1型が20株、AH3型が17株、B型が2株であった。前年度はAH1型、AH3型の流行がみられたが、今

年度はAH1型、AH3型およびB型の流行であった(図3)。

なお、分離株の同定には国立感染症研究所配布のフェレット感染抗血清を用い、HI試験によって判定した。

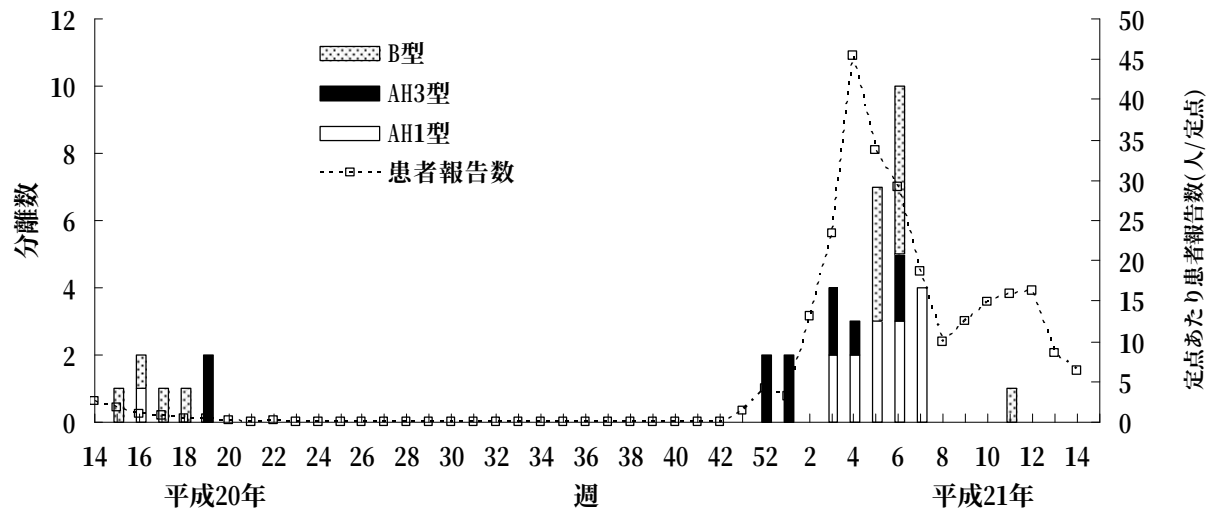


図3 福岡市における感染症発生動向調査患者定点あたりのインフルエンザ患者報告数とウイルス分離数